

株式会社竹嶋繊維

「厳しい下着製造の業界をけん引
高い信頼と技術力で海外展開へ」



【写真左上】ミシンで生地を縫い付ける従業員【写真左下】本社社屋【写真右上】自動裁断機で生地を無駄なく切っていく【写真中下】できた製品を従業員が厳しくチェック【写真右下】工場で製造している下着

皆さん、こんにちは。企業支援相談員の久間です。今回は、このコーナーで初めての服飾関係の企業、株式会社竹嶋繊維を紹介します。

この会社は、皿垣開に工場を構え、主にソフトブラやショーツなど女性用の下着を製造しています。この工場では1日に約3000枚、月産約7万枚の下着を製造。竹嶋紀年社長は「国内の複数の大手服飾メーカーから受注しています。ある有名メーカーの日本製の下着の約90%を、実はわが社で作っているんです

【事業者情報】

- 本社所在地＝皿垣開 908・2 ☎76・2035
- 資本金＝1000万円
- 代表者＝竹嶋紀年
- 従業員＝40人

よ」と話します。

皆さんが着る下着は、薄くて伸び縮みする生地が多く使われ、ブラジャーのように立体的なものもありますよね。そのため、下着は想像以上に作るのが難しいのだそうです。

「下着は直接肌に触れるもの。種類によっては、細く作る個所があり、そして着心地や付け心地も損なわないようにしなければなりません。また、メーカーによって細かいこだわりもありますので、製品の種類によってミシンなどの機械を使い分けて対応しています。日本人は品質に厳しいですから」と語る竹嶋社長。妥協を許さない姿勢がうかがえます。

竹嶋社長がこの会社を立ち上げたのは昭和54年。その前は大阪の大手服飾メーカーに勤務していました。柳川市内の縫製工場へ技術指導に來たのが縁で、独立して市内に会

社を立ち上げたのだそうです。

今後について、竹嶋社長は「現在ベトナムの首都、ハノイに下着製造工場を建設中で、来年の6月ごろに完成予定。その後も規模を拡大していく計画で1000人の雇用が目標。下着製造の業界はとても厳しい。生き残っていくためにも、わが社はモノづくりに徹して、メーカー、そして消費者に喜んでもらえる商品を作りたい」と意気込みを語りました。

「久間のひとこと」

納期と品質を守り、地道にまじめに良いモノを作り続けることが、信用を生み、大手服飾メーカーからの注文も入るようになる、という社長の力強い言葉からは、自社のモノづくりに対する絶対の自信を感じました。

【問】市商工振興課企業誘致・ベンチャー支援係 ☎77・8762